先天性内反足の確実な治療法 ～Ponseti（ポンセッティ）法～

徳島大学病院 整形外科 科長 安井夏生 やすい なつお

■問い合わせ 整形外科外来 Tel.088-633-7237

■正しく適切に治療するために

先天性内反足は出生時に独特の足変形（内転、内反、尖足、凹足）が見られる疾患で、足がゴルフクラブのように見えるため club footと呼ばれます。日本ではおよそ2000出生に1人の割合で発症しており、生後すぐからギブス矯正を試みるのが一般的です。しかし従来の方法では、複雑な変形要素を全てギブスで矯正しようとするため、舟底状変形や扁平距骨が新たに発生し、結局手術となるパターンがほとんどでした。Ponseti法では内反足の変形要素を順序だてて矯正するため、手術を行わなくても変形はほぼ完全に矯正され、柔らかくて痛みの無い、力強く機能的な足を作ることができます。

■Ponseti法とは

内反足の複雑な変形要素をすべて同時に矯正しようとしていた従来の方法とは異なり、Ponseti法では、まず前足部の回内（凹足）と内転の矯正を行います。毎週ギブスの巻き替えを行いますが、少なくとも最初の2回のギブスでは尖足の矯正は行いません。5ー6回もギブスを巻きかえると後足部の内反が自然矯正されます。これを見計らって局所麻酔下にアキレス腱の経皮的腱切り術を行います。そして一気に尖足の矯正を行い3週間のギブス固定を追加します。赤ちゃんのアキレス腱は自然に再生修復されます。ギブス治療の後は、足外転装具を装着します。始めの3ヶ月間は終日、その後は就寝時のみ外転装具の装着を行います。再発防止のため4歳ごろまで装具装着することを勧めます。

■Ponseti法の普及に向けて

Ponseti法は、1960年代にアメリカ・アイオワ大学のポンセッティ教授により発表された治療法ですが、学会では長い間受け入れられませんでした。1990年代にインターネットの普及とともにPonseti法は民間で注目されるようになりました。治療を受けた患者さんの両親が自分の子供の治療経過をホームページに紹介し、これを見た患者さんが全米からアイオワ大学に殺到したのです。米国小児整形外科学会もそれを見過ごせなくなりました。私は1998年からこの方法を取り入れてきましたが、日本でPonseti法が普及し始めたのは2003年頃からです。今では小児整形外科の約7割がこの方法にて治療を行うようになりました。Ponseti法がさらに普及し先天性内反足の治療成績の向上につながることを願っています。

▲1.生後間もない先天性内反足の外観。

▲2.外来でのギブス固定。毎週ギブスを巻きなおし、順序だてた矯正を行う。

▲3.ギブス矯正の過程。左から、1週目、2週目、3週目、5週目に巻きかえたギブス。

▲4.Ponseti法で治療をうけた内反足。